OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students

プロフィール（Profile）

氏名　小林寛人
所属　工学域　機械系学類
学年　新２年

留学先　University of Malaya

留学期間 2020/2/16~2020/3/8

記入日 2020/3/16

留学レポート Study Abroad Report

私はマラヤ大学 SUMMER ENRICHMENT PROGRAM に約三週間参加した。短い期間だったが非常に刺激的で楽しい生活をおくることができた。一人でも多くの人にこのプログラムに興味をもってもらいたいと思っているのでこのプログラムの紹介や感想を書きたいと思う。

私がこのプログラムに応募した理由は英語力を向上させたいと思っていたからだ。大学受験勉強や授業を通じて reading や writing はある程度習得していたものの、実際に人と英語でコミュニケーションを取ることは全くできなかった。そこで一定期間海外で過ごす事のできるこのプログラムを通じて少しでも英語によるコミュニケーション能力を向上させたいと思った。また、マレーシアは日本に比べて物価が安くアメリカやイギリスで語学留学するよりも研修費用を抑えることができるのも決め手の一つあった。

実際に現地での生活は右のスケジュール例にあるような生活だ。午前の授業は主に、speakinng,writing,grammar,reading の 4 つの授業のうち 2 つをうけた。当たり前のことだが、全て英語で授業が行われるので非常にリスニング能力を鍛えることができた。何より一番印象に残ったことは、すべての先生がとてもフレンドリーでユーモアに富んでいるということだ。シャイな日本人学生でも気軽に話しかける事ができる柔らかい人当たりは人間的にも素晴らしいと思ったし、学生と教師が気軽に雑談をしたりジョークを言い合ったりできる雰囲気はとても素晴らしいなと感じた。

午後からの文化体験学習では、マレーシアの伝統的な楽器を使った音楽体験と伝統的なダンス、そして英語でのミュージカルをした。練習した音楽やダンスそしてミュージカルは最終日のセレモニーで民族衣装を着て発表をした。

マレーシアでは夕方におやつを食べる時間がありアフタヌーンティーとよばれている。おやつといってもスナック菓子のようなものが出るのではなく、モチのようなものやカレー味の春巻きのようなものが出た。マレーシアの食事は総じてスパイシーなものが多かったが、おやつの味付けもそれに近いものが出てきたときは少し驚いた。ただ、口に合わないものが出る時もあった。

一日のスケジュール例	
7：00	起床
7：50	寮を出発
8：00	朝食
9：00	午前授業開始
13：30	ランチ
14：30	民族ダンスや音楽のレッスン
16：30	アフタヌーンティー
17：30	寮に到着後フリータイム（夕食、ショッピング、アクティビティ、雑談など）
0：00	就寝

現地での生活で特に印象深いことは寮に帰った後のフリータイムである。この時間を利用して夕食を食べに行ったり、友人と談笑したり遊んだりする。現地のバディとくだらない話をしたりゲームをするときもあれば、将来のことなど少し真面目な話をするときもあった。

他の班のバディと仲良くなるのは大抵この時間であった。夕方、コインランドリーが空くのを待ちながらバディの現地学生とくだらない話をして仲良くなった。国は違えど現地学生も 20 代前半の学生であり、皆友人関係のことや恋バナや少し下品な話が大好きで話題には困らなかった。日本で友達と夜な夜な談笑するのと同じように会話することができた。場の雰囲気があたたまってきて楽しくなればなるほど自分も話したいと思うし、人の話は理解したいと強く思うし、そういう環境が結果的に自分の英語のコミュニケーション能力を引き上げてくれたとも思う。

また、ある日はバスケットボールやサッカーやバドミントンをして楽しんだ。マレーシアは日中気温がとても高くとてもスポーツができる環境ではないので夜の 9 時くらいから行っていた。運動神経の良し悪しに関わらず、ボール一個で仲良くなれるということにスポーツの魅力を改めて実感した

また別の日にはバディとは異なる現地学生と仲良くなることもできた。授業後にバスケットボールをしていた中国人の学生であったのだが、彼の話はとても魅力的であった。彼は留学でマラヤ大学に来ていたのだが、非常に英語に堪能で自分が英語を聞く力が上がったのではないかと勘違いしてしもうほどきれいな発音であった。しかし、中国にいた頃は多くの日本人学生と同じようにほとんど話すことができなかったそうである。そんな彼がどうやって、またどういった気持ちで英語を学んでいたのかという話はとてもためになった。また、勉強の話や音楽の話や人間関係の話もしたが、彼が自分よりも少し年上だったこともあり自分よりも成熟した考え方を持っていて非常に面白かった。他にも様々な出会いがあり、このフリータイムでは多くのことを学ぶことができた。このフリータイムの時間で何を感じ、何を学ぶかは人それぞれだと思うが、自分にとってこの時間は非常に濃密でかけがえのないものとなった。

上に書いたこと以外にも、休みの日には観光地に行ったり、ホームステイに行ったりと様々なイベントがあったがどれも非常に充実した時間であり、日本人留学生の 3 週間をこれだけ素晴らしいものにできる現地学生には感謝してもしきれないし、自分も見習わなければならないことがたくさんあった。遊ぶときと勉強するときのメリハリがしっかりしていて、何をするにも全力で、変にかっこつけたりせずに自分らしさをありのままに表現できる素直な彼らに出会えたことは今後の大学生活にとって大きいな財産となったと思う。